

特集

# 長崎大学の 新キャリア 教育

近年、「キャリア教育」という言葉がメディアでもさかんに取り上げられています。キャリア〈career〉とは生き方そのもの。自分が何をしたいのか。仕事を通してどのように社会に貢献するのか。働く上での心の軸や方向性を育てていくのがキャリア教育であり、就職活動(就活)もその一つです。

日本の大学のキャリア教育への取り組みは、地域や大学によって温度差があり、アプローチの仕方も違います。その中で長崎大学はこれまで培ってきた各学部での取り組みを後押しするために、昨年新たに「キャリア支援センター」を整備・拡充しました。

学生たちが専門知識をはじめさまざまな力を身に付け、卒業後は世の中に貢献できる社会人となる——そのためには、大学生活における段階的で柔軟なキャリア教育が欠かせません。長崎大学の新しいキャリア教育をご紹介します。

学生たちが専門知識をはじめさまざまな力を身に付け、卒業後は世の中に貢献できる社会人となる——そのためには、大学生活における段階的で柔軟なキャリア教育が欠かせません。長崎大学の新しいキャリア教育をご紹介します。



グローバル時代に必要とされる人材とは？

# 企業が求める力と長崎大学ブランド

特集  
長崎大学の  
新キャリア  
教育

## 対談

新しいキャリア教育が目指す  
次世代の人材育成

片峰 茂

長崎大学医学部卒業、東北大学大学院医学研究科修了。医学博士。長崎大学歯学部総合研究科教授、同大国際連携研究戦略部長、学長特別補佐などを経て、二〇〇八年より現職。専門はウイルス学。特に「フリオ」。

Shigeru Kamine

矢野／長崎大学では、二〇一六年二月に「キャリア支援センター」が誕生し、四月から新キャリア教育が本格的にスタートしました。本日は本学の経営協議会委員である原田庸一郎さんと片峰茂学長に「長崎大学のキャリア教育のあるべき姿」というテーマでお話ししていただきます。原田さんは、三菱航空機株式会社の主幹部員であり、三菱重工の人事部門にも長年在籍されていたので、企業側の視点で語っていただければと思います。

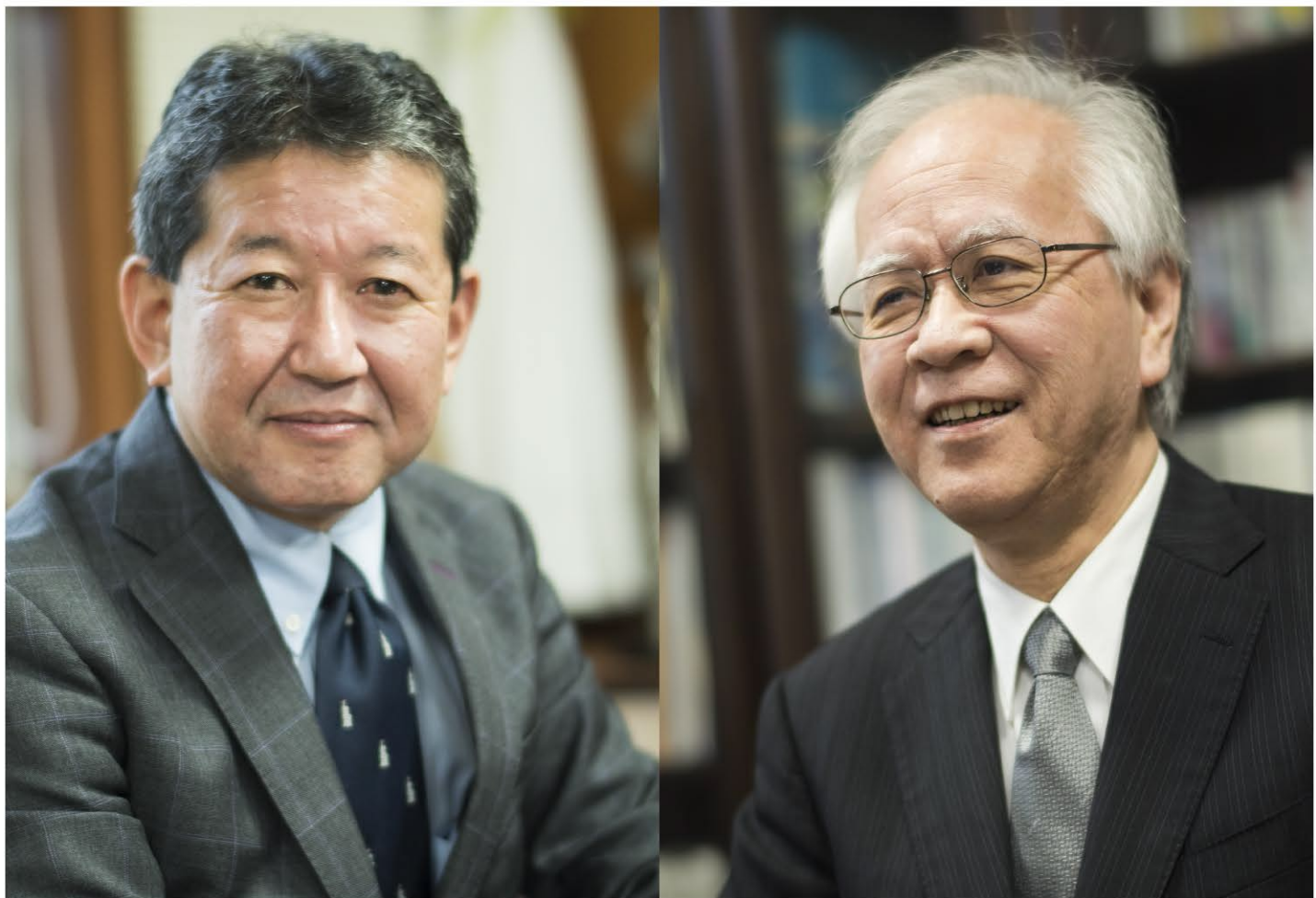
さて、大学のキャリア教育とは何ぞやという話から始めましょう。大学には、次世代の人材を育てて社会へ送り出す重要な役割があります。国立大学のキャリア教育の流れは、かつての就職支援からキャリア支援へ、また会社選択から生き方支援へと変化していきました。まず学長に、長崎大学が考える次世代の人材育成についてお話し

企業が受け入れて育てていきたい人材という意味でベクトルはまったく同じです。

学長／それはうれいすね。私は、現代の社会は「グローバル」というキーワードに象徴されると考えています。航空網は世界に張り巡らされ、情報ネットワークは地球上を覆い、人や物の動きに国境が感じられなくなりしました。そういう時代において、学生にどのような資質が求められるのか、日々考えています。

矢野／グローバル人材の育成について、企業はどのようにお考えでしょう。

原田／国内市場が縮小し、海外企業の国内への参入障壁が緩和されたことで、どの企業もグローバルに事業を展開していかねばなりません。海外で外国人と一緒に仕事をしていくときの解とは何か。しかしどの企業も「自社にとつてのグローバル人材」を明確には打ち出しておらず、大学側も模索しているのでしょう。私が考えるに、英語力や異文化対応能力は道具にすぎず、本質ではありません。三菱重工グループはOJTや社内研修などを通じてグローバル人材の育成を図っていますが、私自身は、グローバル人材の要素として大きく分けて四つのことを考えています。一つ目は「全体最適」を常に考えること。自らが帰属する会社や組織の固有の利益にとらわれず、選択と集中を常に指向し、自前主義から脱却して共同開発や、アウトソーシング、M&Aを進めていかなければいけません。三菱重工も近年非常に積極的に事業の選択と集中を進めています。その代表的な例として日立製作所と火力発電システムの合弁会社を設立しました。グローバルな事業展開を図っていく上で、お互いの良いところ



三菱航空機社長付主幹部員

原田庸一郎

福岡市出身。九州大学法学部卒業。三菱重工工業入社後、米田三菱重工工業法務担当部長(二〇一〇年)に就任し、三菱重工工業長崎造船所総務部長、同本社人事部長を経て、二〇一五年より同長崎造船所所長代理を務める。二〇一六年より現職。

Yuchiro Hirata

を取り入れて戦っていくというものです。二つ目は「セルフモチベーション」。

義務感や「やらされ感」ではなく、志を持つこと。これは長崎大学の学士像にもあります。志とは、社会における三菱重工の存在意義、自部門における自部門の存在意義、自部門における自らの存在意義を常に意識して、課題に対してできない理由を考えるよりどうしたらできるかを考えるということ。さらに、自分が置かれている環境を楽しめる力も大切です。三つ目に

「アンテナ活用力」。積極的にネットワークを持ち、先入観を排除して情報を分析し、課題に適用するための仮説を構築する力であり、アンテナを立てて活用する力のことです。四つ目が「突破力」。組織を動かせる力です。相手に納得してもらい、応援してもらうにはどうすべきか、そのためのプロセスも含めて考え抜くことが大事です。さらに、問題が起こったときにセルモーターのように瞬時にシユーツと考える頭の中をキューッと回してポツと解を出

していただきます。

学長／私は学長を務めて九年目になります。二年目に学内で議論して長崎大学が目指す学士像に求められる四つの資質をまとめました。一つ目は専門性。研究者や専門職業人としての基盤を整えること。二つ目は主体性。主体的に学んで考え、それを表現し行動に移すこと。三つ目は環境や多様性を認識する能力。四つ目は地域や地球に貢献する志。この四つをベースに改革を行い、現在に至っています。

矢野／我々はそうした学士像を掲げて学生を教育していますが、企業側から見ると、長崎大学の学生のイメージはどのようなものでしょう。

原田／まず地域でいえば、企業は九州の学生の採用意欲が高いと思います。多少寡黙な傾向はありますが、表面的ではないコミュニケーション能力を持ち、しかもタフです。そんな九州の中でも長崎大学はブランド力があり、企業の評価は高いですね。だから自信を持って取り組んでいただきたい。学長がおっしゃった学士像は、まさに

す、そういう瞬間的に考え抜く力も大事です。また、今はトライ&エラーの時代ですから、駄目だったら次の策を考える。挑戦するときは八十点はいらない、六十点で突き進んで問題が出てきたらいかにして乗り越えるかを考えるのです。この四つの力を伸ばすように若手を指導しています。

学長／おっしゃるような力は、これまでの日本人に欠けていた弱い部分ともいええます。どうしても日本型の縦割りの村社会が、霞が関にも大企業にも大学にもあります。仲良しグループや村を突破して社会的な共通課題に向かって協働していくには、新しいチームを構築してグローバルにつながる大切ですね。実は、長崎大学にも注目している学生の動きが二つあります。一つは核兵器廃絶研究センター(RECNA)に集まる学生たちです。核軍縮という世界的な課題を前に、さまざまな論点や興味の対象で議論や行動を起こす

コーディネーター

矢野 香

長崎市出身。活水女子大学卒業。日本大学大学院総合社会情報科学研究科人間科学専攻博士前期課程修了。NHKアウンズを経て、二〇一四年より現職。専門はプレゼンテーション、コミュニケーション教育。

Kaori Yanagi



※1 OJT/On the Job Training 仕事を通じてトレーニングすること  
※2 M&A/Mergers and Acquisitions 企業の統合(合併)、また、ある企業が他の企業を買収すること

うちに世界中から注目されるようになりました。国連や国際赤十字など第一線で活躍している要人たちが彼らと話したいと接触してきます。その出会いが彼らにとっても良いトレーニングになっています。もう一つが「ながさき海援隊」という、地域で活動する海浜清掃のボランティア組織です。ゴミの清掃だけでなく、その分析や解析をして学会発表まで行っています。漂着物は中国や韓国の物が多いことから「次はアジアに出よう」と盛り上がっています。この二つは、学生が自主的な活動でチームを作って世界に出て行こうという動きで、優れた若者が育ちつつありますよ。

矢野／私の専門であるプレゼンテーションという視点からすると、彼らは活動を通じて自己表現力が磨かれています。アウトプットの際には、話の自身はもちろん、他者に伝えるための表現力も必要です。学長／英語も、彼らのように社会で必要に駆られて話す圧力的に上達しますよ。

### 力関係の異なる中で問われる コミュニケーション力

原田／我々より上の世代の人たちは学生時代に社会との関わりの中で実践力を磨いていました。大学がモラトリアム化していく中で、グローバルな人材の基礎条件となるコミュニケーション力は、採用の際にも注目する点です。面接の際に学生はみんな「私はコミュニケーション力があります」と言いますが、企業は見抜いています。サークルなどの仲間とのやりとりよりも、上下のコミュニケーション、学外の地域社

ところもあると思います。長崎から若い人が出て行くことを問題視する声も聞きますが、坂本龍馬だって世の中を変えようと土佐を飛び出したのですから（笑）。学長／一方で地元に残って働きたいという学生や、外から戻ってくるUターン、長崎に移住するIターンの人もいます。そういう地元志向の強い学生の卒業後のキャリア支援も産学官が連携して行う必要があります。村社会の縦割りを突破して。原田／地元企業にもいいところはたくさんあるのだから、求める人材を具体的に伝えたい方がいいですね。例えば、大手だと英語は入社後の社内教育で叩き込みますが、地元の中小企業はそこまではやれないでしょうから、英語力のある人材は逆に地域でこそ即戦力になるかもしれません。矢野／今の一年生全員に対するアンケート調査で、将来の進路に影響を与えている人は誰か聞いたところ、①親、②自分、③友人、保護者の方々の影響が大きいようです。先ほど原田さんが「地元にもいいとこ

### 就職は自らを変えて 進化させる

### 最大の機会だと思えます

Yoshitomo Hirata



### 安定志向では 激動の世の中を 乗り切れません

Shigenori Kawanishi

会とのコミュニケーションを図り、人々からどのように応援されてきたかという点を注視します。要は力関係が異なる中で周囲を巻き込む力です。

矢野／長崎大学にはその力を鍛える場所やチャンスがたくさんあります。原田／社会に出ると力関係が異なる中でコミュニケーションを図り、周囲を巻き込んでいかなければならない。そういう意味で、上下のコミュニケーションに優れ、トライ&エラーに長けているという点で、体育会系の学生は企業からの人気が高いのです。私はよく面接で学生に「上司をどうしても説得できないときはどうする?」と質問します。だいたい答えに詰まります。ロジックだけでなく、場所・タイミング・調子・相手の立場も含めて考えられる力がコミュニケーション力なのです。矢野／答えがあると思いついてる学生は「どうすればいいですか?」とすぐ質問してきます。そういうときは「どう思う?」自分で考えてやってみなさい」と伝えます。



原田／外国人とのコミュニケーションも、どうしたらこの人が自分に親近感を持ってくれるかを必死で考えることが大切です。矢野／大学側と企業側にズレはないでしょうか。

学長／それはありますよ。国の審議会などで発言される大企業のOBや重鎮の言葉と、企業の人事担当者の思惑が違い、戸惑うことがあります。

原田／それはもう人事担当者も丁寧に、継続的に話をした方がいいですね。企業がどういう人材を求めているのか。大切なのは一つ目に論理的かつ体系的な思考構成力です。総体的に学ぶ高校と違い、大学では一つの学問をいろいろな観点から専門的に考え抜いてきた人を採用したい。二つ目が先ほどのコミュニケーション力。三つ目がグローバルな専門知識を有する人です。例えばMBAで学ぶような戦略分析論や財務分析論、マーケティングやビッグデータを扱う統計学、人事制度や人材育成論、IoT、サイバーセキュリティなどの知識を備えている学生は企業が求める人材です。また、三菱重工も含めてメーカーの機械や電気分野では女子学生を強く求めていますので、保護者の方は娘をはなから文系と決めてかからないでほしい。機械や電気的女子学生は今後就職活動では売り手市場になりますよ。それから四つ目に自律心のある人、つまり自分で考えて自分で動ける、自らが変わる力を持っている人です。自らが変われないと、周りを変えることはできないし、そういう意味で就職というのは、自らが弱いと思っている傾向やふるまいを変えて、進化する最大の機会だと思えます。

## 不確実性の時代に 光を放つ人材を 育てていくために



特集  
長崎大学の  
新キャリア  
教育



### 一番大切なのは本人の志 未来は自分で切り拓く

矢野／キャリア教育は、コミュニケーション能力を身に付けさせるなど人格育成も大切ですが、従来の就職支援も欠かせません。長崎大学の過去三年間の就職状況は九十二%を上回っています。行先は九州の中でも長崎や福岡。そして関東。このあたりには長崎大学のどのような特徴が表れているでしょう。

学長／かなり地元志向が強いですね。保護者の希望もあって、就職先はあまり遠くない福岡程度。それに地方大学の場合、首都圏での就活はお金がかかり大変です。国としても地方創生の流れの中で卒業生を地域に定着させたい。

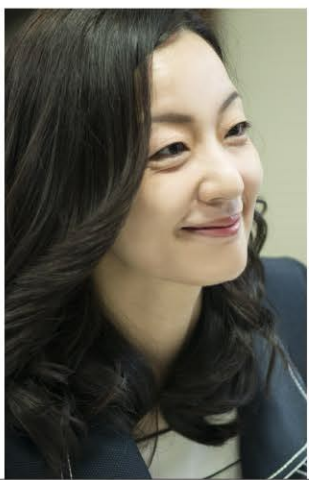
原田／長崎大学は企業の評価が高いので中央志向の学生もいると思いますが、その気持ちを押してどめて地元に残すのは難しい

### 社会で通用する

### コミュニケーション力を 鍛えるチャンスが

### 長崎大学にはあります

Kaori Yano



ろがある」とおっしゃいましたが、その「いい」の価値観が、保護者の方と学生とで違うのではないのでしょうか。

原田／そうですね、保護者からすると名前の知れた大企業じゃないと、いつつぶれるか分からないと（笑）。まあしかし、まずは子どもと向き合い、大学卒業後にどんなことをしたいのかをよく聞いた上で大学を選択していくべきでしょう。よく言っているのが「大学を偏差値で決めるな」ということです。

矢野／まさにキャリア全体を見通して大学を選ぶということですね。

学長／やはり保護者の方々は安定志向が強い。免許を取っておけば安心、または大企業や公務員で定年まで働けばよしと。しかし今の激動の世の中で、安定志向では乗り切れません。自らの意志で地元貢献したい、あるいは中央や世界に出て長崎に還元したいという志のある学生もいるでしょう。自分の将来は自分で切り拓くことも大切です。

矢野／その言葉は、先ほど原田さんが言われた「セルフモチベーション」や「突破力」につながっていきますね。キャリア支援センターも、やるべきことがたくさんあります。

原田／企業としても期待しています。長崎大学ならではの人材育成に取り組んでください。

矢野／グローバルと不確実性の時代を生き残れる人材を育てていくために……。

学長／「生き残る」だけじゃない、不確実性の時代に能動的に「光を放つ」のです。矢野／分かりました！ 我々もがんばります。本日はありがとうございました。

# キャリア支援センター

三年間という長い準備期間を経て、本年度から本格的に動きだした長崎大学のキャリア支援センター。全国的に見て後発ともいえるタイミングですが、それには理由がありました。堀内伊吹センター長のお話です。

「早期にキャリア支援のセンターを設けたのは私立大学が多かったのですが、当面の課題として就職率のアップがありました。就職率が悪いと学生募集に響きますからね。長崎大学の場合、就職率はほぼ九十%以上で、これには学部ごとの就職支援が功を奏してきました。しかし就職活動のシステムが年ごとに変化し、社会や働き方が多様化する中で、今や就職すればそれでゴールという時代ではありません。大学の四年間で専門の学びとじっくり向き合いながら、同時に卒業後の人生も視野に入れたキャリア、つまり生き方のライフプランを考えてほしい。そのためキャリア教育と、きめ細かな支援体制を構築してきました。準備期間が長かった分、一番新しく充実した内容でスタートできたと思いますよ」。

どのようなサポートを行っているのでしょうか。

「まず、一年次から一環したキャリア教育プログラムを構築し、専任の教員がサポートに当たります。加えて専門のキャリアアドバイザーによる個別相談を拡充しました。また、これまでは別々の動きだったボランティアやインターンシップなど社会体験・就職支援のプログラムも系統立てて展開し、やる気のある学生の大学外での体験を促します。もちろん求人情報もオンライン上でいつでもアクセス可能です。これまでは、三年次になってから慌てて情報収集し始める学生もいましたが、一年次から自分の専門性を意識しながらキャリア形成をしていく環境を整え、学部ごとの就職支援とも連携して四年間で軸を持った人材をじっくり育成するのです」。

学生や企業の人事担当者が気軽に立ち寄って情報を得やすいよう、明るく広いフロアを持つキャリア支援センター。人生の大切な選択を納得のいくかたちで行えるよう、堀内センター長ほか専任スタッフが温かくサポートしていきます。



キャリア支援センター  
場所/文教キャンパス 学生会館1階  
時間/平日8:45~18:00  
問合せ/長崎大学キャリア支援センター  
TEL.095-819-2101  
メール/syusyoku@ml.nagasaki-u.ac.jp

## 就活支援情報を オンラインでチェックできる NU-Web

就職に関するあれこれをリアルタイムでチェックできる就職情報総合支援システムが、さらに進化して学務情報システムと一本化しました。就職ガイダンスや会社説明会の申し込み、キャリア相談の予約ができる従来の機能に加えて、どのような学びや活動を行った学生がどこへ就職したかというデータが蓄積されていきます。長大生の就活データの一元化により、これから就活をする学生にとっても、より現実的な指針やアドバイスが受けられるようになります。(2017年3月始動)

問合せ/キャリア支援センター  
TEL.095-819-2101

## 第1回は 高田明氏を迎えて

# 「キャリア入門」講義



「目標を持って今を懸命に生きること、それには『ミッション(理念)』、『バッション(情熱)』そしてアクション(行動)が必要です。高田さんの語りかけに、1年生もうっかりうなずいていました。」

大学に行くのはなぜ? ブラックバイトって? チームで働くってどういうこと? 大学入学後の自分の人生をどのようにデザインすべきかを学ぶ「キャリア入門」が、キャリア科目1年次の選択必修科目。第1回は学長とジャパネットたかた前社長の高田明氏による講義でした。そのほか、専門教員による税金や労働法の講義や、先輩が就活経験を語る座談会などが組み立てられ、キャリア支援センターの上手な活用も学べます。「全体を通し、社会に出てから必要とされるコミュニケーション力やプレゼンテーション力も磨いていきますよ。自分の強みを知る自己分析の時間も設けています。自分について客観的に考える機会にしてほしいですね」と専任の矢野善助教。

## 将来のキャリアを カジュアルに考える学生グループ

# COME

Career Obtain Meet Enjoy



カードゲームを取り入れた自己分析で盛り上がる。この日のCOME。

仲間との会話を通して将来の進路や自分の生き方について考える学生の自主企画グループもできました。主に隔週水曜日に学年や学部の垣根を越えてセンターに集います。中心メンバーはいずれも就活の準備に余念のない3年生。「同じ立場から呼びかけて刺激し合いながら意識を高めていきたい。情報共有もできます」「一般企業経験をもつ先生を招いて座談会を開こうと計画中です。業界研究にもなるし、普通じゃ聞けない話もお聞きしたい」と語ります。キャリア形成に興味のある長大生なら誰でも参加できるオープンな集まりです。

## 長崎で働きたい 学生のための

# 「長崎地域学」と 地元企業交流

長崎県内の大学が地元企業や地方公共団体と協働して人材を育成するCOC+事業は、県内への就職希望者への支援プログラムです。産業界を含む学外の講師が長崎の地勢、歴史、文化、産業などの基礎知識を学生に教えるもので、長崎の魅力や可能性、課題などが学べます。地元企業交流会やセミナーも随時開催し、「長崎で働きたい」学生を後押しします。

## 首都圏での 就活基地として使える



# 長崎大学ラウンジ

長崎大学では、東京(新宿)、大阪、広島、福岡の4都市に長崎大学ラウンジ「セカンドキャンパス」を開設し、そのすべてで県外での就活を応援しています。ここでは就活関連の情報提供のほか、PCや充電器、大学指定履歴書なども用意。デスクや更衣室もあり、荷物預かりなどのサービスもすべて無料で受けられます。

ホームページ  
[https://second-campus.net/university/nagasaki\\_university/](https://second-campus.net/university/nagasaki_university/)

## アドバイザーも 相談室も倍増で

# 毎日対応の キャリア相談

かつての就職支援室と比べて、倍の6人体制となったセンター。すぐに対応できる常勤のキャリア・アドバイザー2人に加え、経験豊富な外部相談員がたっぷり1時間話を聞いてくれます。相談室も増やしてピーク時は1日10人以上に対応できるようになりました。「自分が何をしたいのか分からない」という漠然とした悩みから直前の面接練習まで、力になってくれます。



# 学部別のキャリア教育 多文化社会学部

## 一日一社の企業紹介と業界案内

### 一年次から段階的に グローバルキャリアを学ぶ

キャリア支援センターでは、主に一、二年次に全学的なキャリア教育を行いながら、各学部ごとの専門的な取り組みとも連携しています。そのモデルケースとして二〇一四年度に新設された多文化社会学部の場合をご紹介します。お話を聞いた就職委員の白井章詞准教授はキャリア教育が専門で、民間企業で新入社員採用や教育に携わった経験もある、いわばキャリア教育のエキスパートです。

「多文化社会学部は一期生が現在三年生で、先輩学生がいません。その分、どうしても就活経験者による『ここは面白いから受けてみたら』『こういうことに気を付けて』といった生の情報が不足します。そこで一年次から『グローバルキャリアへの扉』や単位に組み込まれた『自主企画インタビュレーション』を行ってきました。正課で少しずつ将来に向けた準備をしながら、三年

次からは一人ずつ希望を聞いて適性を探る個別面談や就職ガイダンスを集中的に開催します」。

### 五十社の シリーズセミナーで 地方の不利をカバーする

昨年十月から今年二月初旬までほぼ毎日行われている業界・仕事研究セミナーも新しい試みですね。

「はい、これは他大学にはない取り組みですよ。首都圏を含む約五十社の企業・各種団体の人事担当者が一日一社ずつ企業紹介や業界案内を行うものです。授業に支障のない六校時に行われ、三年生だけでなく、二年生や他

多文化社会学部で地域でのフィールドワークを学んでいます。地域に根差して貢献できる会社に興味があります。私は空港ビルディングのセミナーに参加しましたが、初めの旅行業的なイメージと違い、地域の方々との接点も大切にしていることがお話でわかりました。このセミナーでは、大手の上場企業だけでなく、知らなかった会社の存在や仕事内容を詳しく聞けるのがありがたいです。

多文化社会学部(3年)  
中村彩葉さん



#### 業界・仕事研究セミナー参加企業

10月28日	経済産業省
11月1日	住友三井オートサービス
11月4日	福岡空港ビルディング
11月7日	長崎県教育庁
11月8日	JTBグループ
11月9日	武田薬品工業
11月10日	パナソニック株式会社 AVCネットワークス社
11月11日	長崎新聞社
11月21日	旭化成
11月22日	東芝テック
11月24日	日本水産
11月25日	持田製薬
11月28日	双日九州
11月29日	大学生協九州
11月30日	JETRO
12月1日	久原本家
12月2日	ANAカーゴ
12月5日	日産自動車
12月6日	JICA
12月7日	NHK
12月8日	九州旅客鉄道
12月9日	富士通
12月10日	共同通信社
12月12日	朝日新聞社
12月13日	高砂香料工業
12月14日	三菱電機ビルテクノサービス
12月15日	再春館製薬
12月16日	ハピネット(バンダイナムコグループ)
12月19日	大日本印刷
12月20日	損害保険ジャパン日本興亜
1月17日	三井物産
1月18日	帝人
1月19日	凸版印刷株式会社
1月23日	アイ・ケイ・アイ
1月24日	東海澱粉グループ
1月26日	西日本新聞
1月27日	(独)中小企業基盤整備機構
1月30日	古河電気工業
1月31日	カネボウ
2月1日	スターフライヤー
2月2日	住友商事
2月3日	Dell
2月14日	霧島酒造
2月15日	ベネッセコーポレーション
2月16日	アサヒビール
2月17日	神戸製鋼所

学部の学生も参加できます」。

登壇されるのは商社、薬品、繊維・素材、自動車などの製造業のほか、メディア、旅行関連、グローバル企業と、ずいぶん多彩ですね。しかも一日一社とは珍しい。通常、就活ガイダンスは数社合同で行われます。

「あえて一日一社に絞ることで丁寧に説明していただけますし、聞く側もじっくり向き合うことができます。学

生が関心を持つ企業に合わせてジャンルも広げ、企業がどのような人材を求めているのかなど事前に聞き取りを行ってレポートで配布しています。中にはTOEFLの点数のみに惑わされないとか、求められる人物像をまねる人は落とすといった厳しい意見もありますよ。しかし企業の真剣なまなざしを早いうちから意識することで、おのずから学びの方向性や生活の質も変わ

るでしょう。もちろん、一番いいのは自分で直接企業を訪ねることです。首都圏ならば企業主催のイベントもあり情報収集のチャンスも多い。しかし地方では限られるため、そこを挽回する意味もあります」。

セミナーは録画され、中・長期の留学で参加できない学生でも後日聴講することができるそうです。留学で日本を離れることが多い多文化社会学部ならではのですね。

「現在の就活は、三月に採用情報が解禁されて、六月に面接、その後すぐに内定と、超短期決戦でカオスのような状態です。説明会参加後、企業研究をする暇もなく一、二週間で応募書類の提出を求められます。そのカオスに突入する前に、職業観や目指すべき将来像などの軸を育てて臨んでほしいですね」。

新しい学部は可能性も無限大。手厚いキャリア教育と質の高い情報提供で、さまざまな選択肢の中から自分の人生を組み立てていきます。



(独)日本貿易振興機構(JETRO)のセミナーのようす。各セミナーでは後半に模擬面接を行うこともあり、実際の人事担当者とのやりとりで度胸をつきます。

設置三年目の多文化社会学部は卒業生がいなくても就職に関する生の情報が不足しがちです。それを補うのが一年次からの段階的な学びと多彩な企業セミナー。セミナーでは業界事情から会社概要までをじっくり聞くことで自分の将来に向き合うことができます。



白井章詞准教授

兵庫県生まれ。法政大学大学院経営学研究所キャリアデザイン学修士課程修了、法政大学政策創造研究所キャリア労働政策コース博士課程中退。法政大学総長室付企画・戦略本部特任講師、九州産業大学基礎教育センター専任講師を経て、二〇一六年四月より現職。日本キャリア教育学会の九州地区理事、九州地区事務局長を担当。研究領域は、若者・特に大学生への職業選択大学におけるキャリア教育。

# 学部の専門性や特徴をふまえた キャリア教育を独自に展開

## コース別就職担当制と 企業人による業界講座

長崎大学の各学部では、学びの専門性に基づいた独自のキャリア教育を実施しています。

中でも特徴的なのが工学部。専門分野で就職活動のあり方が大きく異なる工学部の場合は、六つのコースごとに担当教員が配られています。全体をまとめている林秀千人教授にお聞きしました。

「工学部では、五十年の歴史の中で独

長崎県西海市の大島造船所から内定をいただいています。就職大学院院が迷ったので就活開始が遅かったのですが、研究室の先生に推薦していただき、スムーズに決まりました。推薦してもらうには一定以上の成績を修める必要があるのですが、僕の場合は特に2年次の専門基礎科目で集中力や粘りが鍛えられたのが良かったと思います。機械工学では分野によって扱われる技術が異なることを1年次から学ぶので仕事がイメージしやすかったですね。4年間で身に付けた専門分野の基礎知識を生かしながら、入社後の研修で実践的な技術を修得するつもりです。



工学部機械システム  
工学コース(4年)  
入江祐平さん

各学部で行われているキャリア教育は、それぞれの学部での専門的な学びと結びついています。また、国家試験合格を目指す特別講座や学習環境の整備も行われ、前向きな学生の思いをきちんと次のステップにつなげられるような仕組みが構築されています。もちろん、いずれも学生本人のやる気が一番大切。大学生活の過ごし方が鍵なのです。

自のキャリア教育が確立されています。工学は実学ですから、教員と企業の信頼関係が共同研究などを通じて構築されています。しかし、機械、電気、情報、建築・土木、化学と専門分野によって業種が異なることから、コースごとに就職担当者を置いています。一年次から担当が学生の性格や成績などを勘案しながら就職のサポートまで行います。一コース当たり二百

七百社ほどの企業が教員と面談を行って求人情報をやりとりし、最終的には教員の推薦で決まるケースも少なくありません。特筆すべきなのが二年次から三年次に行われる企業の方による講義です。現役エンジニアが、最新技術や業界事情、成功談や失敗談などを語るもので、学生も学びの先にある将来のビジョンが得られます。近年は企業そのものが多様化してイノベーションも進んでいることから、技術も高度になり、専門性が高い学生が必要とされています。それに伴い、工学部の学生の六割以上が大学院の修士課程に進学をする状況です。また、ジャンルを超えた人材も必要とされており、コース間の求人情報交換も欠かせません。就職だけでなく、研究職の道に進む学生もいますね。



日本精工株式会社の武村浩道さんが登壇した講義。この日は、自社で製作しているベアリングを持参して会社の紹介をしつつ、自動車業界全体の話やエンジニアとしてどうあるべきかといったテーマまで盛り込んでいました。「なるべく相互発信できる雰囲気を作り、学生との会話から私自身もヒントを得たいですね」と武村さん。

## 免許試験に目標を定めた 学部独自の集中講座

また、特定の職業に就くための免許を取ることに主眼を置いた学部が、教育、医学、歯学、薬学部の薬学科です。こちらも免許取得のための試験対策を中心、早いうちから積極的な支援を行っています。例えば教育学部の場合、正規の授業とは別に、教員採用試験対策特別講座が第一期(週二日)、第二期(週三日)に分けて行われます。学外からも講師を招き、合宿や集中講

座も組み込まれたもので、自由参加ながら毎回熱心に取り組む学生が多く大変な熱気です。

薬剤師を目指す薬学科と創薬研究者を目指す薬科学科のある薬学部では、製薬会社や病院・薬局の就職説明会が随時実施されるほか、年に一度「薬学フォーラム」を開催しています。昨年は七人の講師を招いて就活準備や職業選択のための講演会を行いました。招聘される企業は毎年変わるそうです。

歯学部では、各分野の講義で国内外で活躍する先輩の仕事(診療や研究、行政職など)を紹介し、歯科の世界の多様性を学ぶ機会を設けています。そのほか、長崎大病院と協力型施設での臨床研修で多種多様な病院や診療所の実情を見聞するプログラムもあります。

医学部医学科では就職はほとんどが医師臨床研修マッチングシステムにより、学生は六年次秋までに臨床研修を行いたい病院を決め、順位登録を行います。臨床研修病院も採用したい学生の順位登録を行います。こうして、卒業後臨床研修病院が決まります。また、六年生が集団で勉強する部屋の設置や模擬試験受験補助など、国家試験対策支援も行っています。



教育学部で行われる教員採用試験対策特別講座の様子。座学だけでなく「朝の挨拶を返して来ない生徒にどう接するか」など具体的な課題をグループで話し合うワークショップもあります。

## 卒業生や内定者が 鮮度の高い情報を提供

経済学部の場合、二年次から公務員就職ガイダンスを行い、インターンシップも積極的にを行います。また、前身である長崎高等商業学校時代からの卒業生で組織された瓊林会主催の企業セミナーもあり、在校生にとって心強いサポート体制も自慢です。内定を得た四年生が三年生に就活ノウハウを伝授する学生自主企画「PJ」も、毎年自然発生的に学生が手を挙げ、継続しています。

就職活動を行う学生の二割が公務員に進んでいる環境科学学部では、自己分析から面接での表現の仕方など体系的なプログラムを実施。また、学部棟には独自のキャリアプラザを設置し、常



環境科学部棟1階にあるキャリアプラザ。ここで最新の就活情報が得られます。

駐する相談員が学生の面談練習やキャリア相談に対応しています。水産学部でも三年次と大学院一年次を対象に就職セミナーを開催。エントリーシートや面接対策などテーマ別の講演、OB/OGによる学部独自の企業研究会を行い、毎回好評を博しています。

「周りはまだ就活してないから自分はまだいいやと思っていたら、いつのまにかみんな始めていた」なんて良くある話です。学部で行われるキャリア関連の講義も全学対象のセミナーもなるべく足を運んで、より多くの人の考えを吸収するようにしています。最初は受け身で具体的な夢もなかった私ですが、自己分析を通して少しずつ夢を言語化できるようになりました。バイトも「1日1人以上のお客様にほめてもらう」など目標を作ってやるように。仕事に対する興味の幅も広がりました。



環境科学部(3年)  
山本彩加さん